



第29回種生物学シンポジウムの御案内

第29回種生物学シンポジウムは1998年（平成10年）2月27日から3月1日の3日間、宮城県遠刈田町の蔵王ハイツで下記の通り開催されます。

今回のシンポジウムでは、次の2つのトピックスを取り上げます。

- 1) クローン植物研究の最前線
- 2) 繁殖生物学の新しい潮流

国内外で主導的な役割を果たしている研究者をお迎えするとともに、今後の展開が期待される若手研究者による最新の成果の発表と論議が展開されます。多数の会員の参加を期待いたします。

1. 開催期間

平成10年2月27日(金)～3月1日(日)

2. 場所

宮城県勤労総合福祉センター 蔵王ハイツ
〒989-09
宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字上の原128
電話0224-34-2311

3. プログラム

2月27日(金)

17:00～18:00 夕食

18:00～20:00 プレシンポジウム

河田雅圭（東北大・院・理）

「個体の分散・空間構造と進化」

2月28日(土)

9:00～

シンポジウム1：「クローン植物研究の最前線」

わが国で初めて開催されるClonal meetingに多くの会員の参加を呼びかけます。クローン植物に関する研究は、近年、国内外で大きく発展しつつある分野です。種生物学会の会員に限らず、多くの植物研究者は、個性の問題などからクローン植物を研究することを意識的に避けてきたのではないかと思います。そのため、きわめて多くの植物がクローン成長・繁殖の性質を持ちながら、あまり研究されていないのが現状です。クローン成長・繁殖の進化生態学的な意義についての研究やクローン植物の遺伝変異や集団間分化に関わる研究は、今後の生物学の重要な領域の一つになることでしょう。多くの参加者による活発な議論を期待いたします。

鈴木準一郎（北大・低温研）

「クローナル植物ではなぜ自己間引きが起きないか？」

澤田 均（静岡大・農）

「クローン成長の遺伝変異と種間関係」

Mike J. Hutchings (University of Sussex, U.K.)

Clonal plants as cooperative

systems: benefits and dividends

蒔田明史（文化庁・記念物課）

「ササの更新過程の個体群動態に及ぼすクローン性の影響」

Dennis Whigham (Smithsonian Environmental Research Center, U.S.A.)

The timing and intensity of herbivory - its influence on the performance of clonal woodland herbs.

総合討論

総会

懇親会

3月1日(日)

9:00～

シンポジウム2：「繁殖生物学の新しい潮流」

種生物学シンポジウムでしばしば取り上げられる繁殖生物学も新しい時代に入ったとお感じの方も多いのではないのでしょうか？最近では、数理的手法や野外での操作実験を道具として駆使しながら研究を進めることがきわめて一般的になってきました。このシンポジウムでは、そういった若手研究者の方々に自らの研究を紹介していただきます。若手だけでなく多くの経験豊富な方々にも建設的かつ発展的な議論に参加していただきたいと思います。

石井 博（東北大・理）

「花の寿命の可塑性の進化」

丑丸敦史（京大・生態研）

「両性花植物における自家和合性と自動的自家受粉の進化」

西川洋子（北海道・環境科学研究センター）

「春植物の開花結実戦略－開花順による繁殖能力の違いとその意味－」

遠藤隆裕（北大・低温研）

「キツリフネの繁殖スケジュールとウドンコ病との関係」

大橋一晴（九大・理）

「植物のディスプレイサイズがポリネーターの訪花行動に及ぼす効果」

総合討論

4. 参加申し込み

6 ページの参加申し込み用紙を下記までお送り下さい。(もしくは FAX) ←

〒989-67

宮城県玉造郡鳴子町川渡

東北大学大学院農学研究科陸圏修復生態学内

第29回種生物学シンポジウム準備委員会

参加費のご送金は下記の郵便振替口座にお振り込み下さい。

振替口座 00190-8-115413

口座名義 種生物学シンポジウム

5. 連絡先

〒989-67 宮城県玉造郡鳴子町川渡

東北大・院・陸圏修復生態学

西脇 亜也

Tel: 0229-84-7311

Fax: 0229-84-6490

E-mail: naya@bios.tohoku.ac.jp

または、

〒980 仙台市青葉区 東北大学理学部附属植物園

平塚明

TEL/FAX: 022-217-6761(研究室)

FAX: 022-217-6766(植物園事務室)

E-mail: ahgarden@mail.cc.tohoku.ac.jp,

hiratsuk@biology.tohoku.ac.jp

植物園ホームページからもつながります:

<http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/index.html>

6. 交通案内

列車ご利用の場合、東北新幹線白石駅下車、または東北本線白石駅で下車、宮城交通バス青根線で約40分、遠刈田温泉で下車、またはタクシーで約30分、ある程度人

数がまとまれば、無料送迎バスが出せます。申し込み書に大体の希望時刻をご記入下さい。

自動車ご利用の場合、東北自動車道白石I.C.または村田I.C.を出て県道蔵王線をエコーライン方面に向かい約20分で遠刈田温泉に到着、さらに三佳方面に約5分です。

(西脇 亜也)

幹事会報告

本年度の幹事会は2月29日(種生物シンポジウム開催時)と植物学会大会時の9月18日に開催したほか、必要に応じて文書の往復による稟議を行った。おもな協議事項とその結果は下記の通りである。

1) 和文誌「種生物学研究」編集委員会は昨年度で任期切れとなり、また山口委員長も本務多忙等の事情から辞意を表明されていたが、新会則移行の過渡期であり、来年から正副会長・幹事も改選されることから、この際任期をそろえるため、現編集委員全員の任期を1年延長してさらにご尽力いただくよう要請することとした。この件については幹事会終了後会長から山口委員長を通じて各編集委員にお願いし、全員の1年任期延長を了承して頂いた。また山口氏にも委員長としてもう1年ご尽力願うことになった。

2) 英文誌 Plant Species Biology の発行を Springer など外国出版社に委託する可能性について、河野編集委員長から検討を提案された。発行部数の増加や、国際誌としてのステータスを高める効果などが期待される反面、会の財政負担の増大が懸念されるため、慎重な検討を求める意見もあり、ワーキンググループ(W.G.)を作ってさらに検討を重ねることとなった。W.G.は正副会長、

PSB編集委員長、庶務・会計両幹事と幹事会指名で可知直毅氏に参加を求めて発足することとなった。

3) 本年5月に行われた日本学術会議会員選挙に当たって、本会からは会員候補者に河野昭一氏、同推薦人に小野幹雄氏を出すことを決定して学術会議に通告した。引き続き行われた同会議の推薦人会では、日本植物学会ほか関連登録団体との協議により第4部植物科学分野での会員候補者として、岩槻邦男氏を推薦し同氏が学術会議会員として任命された。

4) 本年度は本会の正副会長及び幹事の改選の年にあたる。このため選挙管理委員会を発足させた。同委員会には可知直毅(東京都立大)、小川潔(東京学芸大)、田中教之(帝京大)の3氏を会長から委嘱した。同委員会は可知氏を委員長に互選し直ちに選挙の施行に入った。細目は別項の通りである。

5) 来年度の種生物学シンポジウムは東北地区で開くこととして、東北大学の会員諸子に企画と準備のご尽力をいただくこととした。詳細は本ニューズレターに掲載の通りである。

(小野 幹雄)

種生物学会会長・副会長および幹事の選挙のお知らせ

種生物学会選挙管理委員会

現会長小野幹雄氏の任期満了にともない、次期会長および副会長の選挙が行われます。また、任期満了にともなう幹事選挙も同時に行われます。任期はいずれも1998年4月～2001年3月です。今回の会長・副会長・幹事の選挙では1997年10月31日現在の種生物学会会員全員が選挙権と被選挙権を持ちますので、どなたにでも投票できます。

会長・副会長選挙では、会員名簿から所属地区にこだわらずに1名ずつ選び、会長・副会長の選挙用投票用紙にその氏名を記入してください（それぞれ単記無記名）。ただし、規約により会長の再選は認められませんので過去の会長経験者への投票は無効となります。なお規約にしたがい、幹事会から以下の方々を会長および副会長候補として推薦されています。また、今回の選挙で副会長に当選した方は次回の

会長選挙の際、幹事会によって会長候補として推薦される予定です（1994年総会決定）。

幹事会推薦会長候補：矢原徹一
幹事会推薦副会長候補：可知直毅、
（アイウエオ順） 原 登志彦、
森田竜義、
鷲谷いづみ

幹事選挙では全国を7地区に分け、地区ごとに幹事を選出します。地区とその定員は以下のとおりです。有権者はご自分が所属する地区内の会員を定員の範囲で選び投票します。なお、2期連続して幹事を務めた会員には今回の幹事の被選挙権がありませんので（会則9-1）、これらの方へ投票されても無効となります。各地区ごとの都道府県名、幹事の定数、および連続2期幹事を務めていただいた会員は以下のとおりです。

地区名（構成県）	定数
北海道地区（北海道）	1
東北地区（青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島、新潟）	2
関東地区（栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨）	3
中部地区（石川、富山、福井、長野、岐阜、静岡、愛知）	2
近畿地区（滋賀、三重、京都、奈良、大阪、和歌山、兵庫）	3
中国四国地区（鳥取、岡山、島根、広島、山口、香川、徳島、高知、愛媛）	2
九州沖縄地区（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）	1

投票用紙は、選挙管理委員会から各会員に発送された封筒に入れ返送してください。なお投票締め切りは1997年12月10日（水）（必着）です。開票は1997年12月11日（木）、午後1時30分より種生物学会選挙管理委員会（東京都立大学牧野標本館）

において、選挙管理委員会の委嘱する立ち会い人のもとで行います。会員はどなたでも開票に立ち会うことができます。

（可知直毅，小川潔，田中教之）



バックナンバー販売のお知らせ

英文誌、和文誌どちらもすべての号がございます。

Plant Species Biology

1年前：¥2000／冊

2年以上前：¥800／冊（全巻揃い¥500／冊）

種生物学研究

1年前：¥1200／冊

2年以上前：¥600／冊（全巻揃い¥500／冊）

申し込み先：〒606-01 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部植物学教室 村上哲明

FAX: 075-753-4145 e-mail: k53870@sakura.kudpc.kyoto-u.ac.jp

種生物学シンポジウム
参加申込書

氏名 _____

所属 _____

連絡先 _____

所属 自宅

参加費 12月20日まで 一般 6,500 円 学生 3,000 円
12月20日以降 一般 7,000 円 学生 3,500 円

宿泊費と食事

2月27日 2月28日 3月1日
パック8000円(一泊二食) パック8500円(一泊二食)
昼食700円 懇親会1500円 昼食700円

送金 下記銀行に合計金額 _____ 円を _____ 日に振り込みました。

参加費等の合計金額は、申し込みと同時に下記の郵便振替口座にお振り込み下さい。

振替口座 00190-8-115413
口座名義 種生物学シンポジウム

2月27日 送迎バスがあれば利用したい。
希望発車時刻(白石蔵王駅発) 12:00 12:30 14:30 16:30 その他()

3月1日 送迎バスがあれば利用したい。
希望発車時刻(蔵王ハイツ発) 15:30 16:00 16:30 17:30 その他()

参加申し込み用紙は下記にお送り下さい。

〒989-67 宮城県玉造郡鳴子町川渡 東北大・院・陸圏修復生態学 西脇 亜也
Tel: 0229-84-7311 Fax:0229-84-6490 E-mail: naya@bios.tohoku.ac.jp